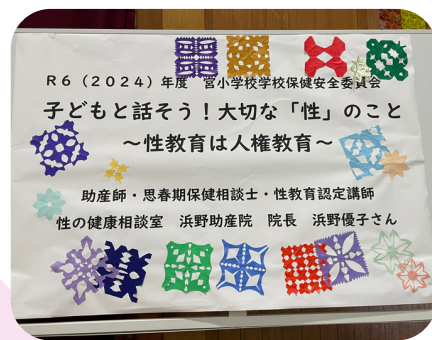


ほけんだより号外

和歌山市立宮小学校



学校保健安全委員会を開催しました

2月14日の授業参観後に、宮小学校卒業生の保護者でもあり、地域で「性の健康相談室 浜野助産院」を開業されている院長の浜野優子さんにお越し頂き、『子どもと話そう！大切な「性」のこと～性教育は人権教育』という内容でご講演頂きました。

最初に、現在の学習指導要領（文部科学省が定めるカリキュラムの基準）に位置付けられている性に関する教育の現状や、小学生の性の知識調査の結果や子どもの「性の知識の教科書」がインターネットだったらというお話の中で、インターネット検索で出てくる内容が間違った情報であったりそれが性被害につながったりすることなどを聞かせて頂きました。

性行為や性感染症を知る前に、体のしくみを知らないといけない。それを子どもたちに肯定的で、科学的に伝えることが大切と話されていました。そして、まず自分を大切にすること、「大切な存在」として扱われることが不可欠であること、繰り返し伝えることで人を大切にすることや感情が育つことも聞かせて頂きました。

そのほかにも、プライベートゾーンや暮らしの中で大切にしたい境界線、家庭で何をどう話したらよいのかも具体的に話してくださいました。

自分の身体を守るために、自分の身体を知ること、大切にすることなど、性について学ぶ事は、国際的には「性の権利」とされていて、基本的人権の一部となっています。

最後に性について特別なものととらえずに、自然なものにと締めくくられていました。

たくさんの本やグッズも持って来てくださり、終了後は本を見たり質問をしたり、浜野先生に取り上げてもらったとステキな再会もあり、すごく充実した時間になりました。

司会やお手伝いをしてくださった育生会のみなさん、ありがとうございました。

頂いた保護者の方や教職員の感想をご紹介します

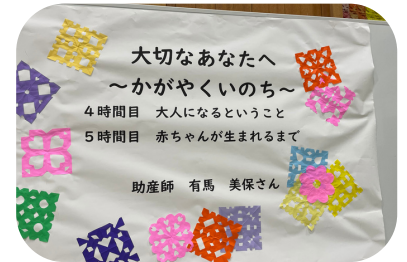
- 「どうして赤ちゃんができるの」と子どもに聞かれて困り誤魔化していましたが、本日の講演を聞いて、どのように対応すればよいのかとても参考になりました。
- 性教育のイメージは、難しい、答えにくい、どう伝えたらよいか分からないなど、ネガティブなイメージがあったが、イメージがガラリと変わった。子どもが自分や周りの人を大切にできるようにするために、性について恥ずかしがらず、難しく考えず伝えていく必要があると感じました。
- 性教育は、お互いに思いやることにつながることを改めて学びました。男女ともに学ぶ事で、知らないことを知り、思いやることがとても大切なことだと思いました。
- 我が子にも、少しずつ話をしたり、そっと家に本を置いたりしようと思いました。まずは、子どもと話し合える関係を大事にしようと思いました。
- 子どもが質問してきたときはチャンスととらえて、質問してきたことをまずほめるというお話がとても印象に残っています。私自身、子どもだった頃は、質問したら怒られるという経験を積んできたので、余計にどんどん聞けない、隠すもの、汚いものという認識になっていったと思います。また、子どもにも大人にも境界線があるということは、抜け落ちていた視点だと感じました。大人にも「大切」があるということを、子どもにも伝えてもいいし、伝えるべきだと思いました。

4年生 大切なあなたへ～かがやくいのち～ 「大人になるということ」「赤ちゃんが生まれるまで」

2月14日の4限目と5限目（授業参観）に実施した4年生の授業の様子をお知らせします。

昨年度も授業参観で、保健の授業「第2次性徴」について保護者の方と学ぶ機会がありましたが、今年度は、保健の授業で第二次性徴についての学習をした上で、助産師の有馬美保さんにおこし頂き、授業をして頂きました。

事前の授業で出た児童の疑問も事前に講師の先生と共有し、思春期の男女それぞれの身体の変化やプライベートゾーンの洗い方や多様性について学習しました。



5限目の授業参観では、保護者の方と一緒にいのちの始まりや誕生までのこと、「もう一度、うまれてみよう」ということで、代表の児童が、用意してくれた子宮に見立てた袋の中に入り、生まれる体験もさせてもらいました。その他にも、児童一人一人に用意してくださったプレゼントの中には、1人ずつに命の始まりである受精卵の大きさのおおよそ0.1mmの穴が開いた折り紙、妊娠が分かった6～8週の胎芽の大きさの綿球、赤ちゃんが産まれておおよそ40分間は肺への酸素の供給が少なく、赤ちゃんが呼吸する大変さを体感するためのストローを準備してくださり、たくさんの経験もさせてもらっていました。

児童の感想の中には下に記した感想以外にも、産んでくれたことへの感謝や育ててくれている家族への感謝、助産師さんの仕事について知れた事、看護師さんや助産師さんの仕事に興味をもったことも書かれていました。

児童の感想

- ・赤ちゃんを産むのはお母さんだけが頑張っていると思っていましたが、赤ちゃんも大変だと分かりました。ストローで息をするのはすごくしんどかったです。お母さんは約10か月も生む準備をするのはすごい。これからお母さん、お父さんに感謝していきたいです。自分がこんな大きくなることは当たり前ではないことがわかりました。
- ・親友同士でも境界線を守っていいこうと思いました。有馬先生や浜野先生のおすすめの本にも興味しんしんになりました。男子が隣で性のことでうるさかったけど、先生の話聞いて安心しました。
- ・私も初めて弟を抱っこした時の事を思い出しました。弟は小さかったのにすごく重かった記憶があります。人形とは違うから弟を抱っこするのは怖かった。自分が赤ちゃんの時は覚えていないけど、今回の授業で生まれるまでのことを知る事ができました。
- ・精子が1億2000万あるのにびっくりし、卵子は1か月に1回出ることが分かりました。僕はお参りに行ったら赤ちゃんが出来ると思っていましたが、卵子と精子が出会ったら赤ちゃんが生まれると聞いて驚きました。
- ・性別だけで人を決めつけてはいけないと思いました。人それぞれでいいんだなと思いました。

保護者の方の感想

- ・小さな小さな受精卵から、赤ちゃんの形になって生まれてくるまでのことを親子で考える機会になりました。自分が、誕生するまでの月日のことを子どもと一緒に帰ってから話をして、「生まれてくるってすごいことやね」と命の大切さを話し合うことができました。
- ・以前、保健の授業で第二次性徴があると学んで帰ってきた時に、「ママの時は男女別で授業を受けた!」と話しました。「なんで。男の子も女の子もお互いの事を知っていたわるべきだ!」と娘に言われ、「そうだね!!」と感心したことを思い出しました。それと同様に、あいまいな知識ではなくきちんとした知識の教養と、性について向き合うことは、とても大切なことだと思います。
- ・今回の授業でより命の大切さを理解し、周りの人を傷つけない、将来結婚した時、子どもを授かった時、思いやりを持ってほしいと話しました。
- ・「どうしたら赤ちゃんが産まれるの?」と質問され、きちんと説明できていなかったの、親子でこのような機会を頂き嬉しかったです。帰ってからも、命が産まれるまでの奇跡や、もし今妊娠したら子どもを育てられるか等話することができました。また、妊娠中から誕生までを思い出して大切に育てていこうと改めて思いました。